

関西の社会ニュース

2009年10月20日

【知事の再挑戦 WTC府庁移転】（1）政治家



負けない布石

「来年はWTC（大阪ワールドトレードセンタービルディング）の知事室から歩いて出席したい」

今月7日、WTCそばの大阪市住之江区のインテックス大阪で行われた「新エネルギー産業フェア大阪」の開幕式であいさつに立った知事の橋下徹は、大阪府庁の移転への強い思いを語った。3月24日未明の2月定例府議会で、賛成46票、反対65票の大差で移転案が否決されてから半年あまり。橋下の表情には当時にはなかった自信が満ちていた。

「ノーサイドです」。3月の移転案否決後の記者会見で、さばさばとした表情で、知事就任後初の“黒星”を認めた橋下だったが、橋下と親しい府議は「はらわたは煮えくり返っていたはずだ」と橋下の気持ちを推し量った。なぜなら当時、古くさい根回しを好まない

橋下が、がむしゃらに議員回りもして移転案可決に向けて走っていたからだ。

すでに決めていた国際児童文学館廃止に反対する議員には、文学館廃止撤回と引き替えにWTC案への賛成を持ちかけたり、また、議員たちと積極的に飲食の場に同席し、繰り返し頭を下げたこともあった。

だが、無記名投票の結果、可決に必要な3分の2どころか過半数にも達しなかった。しかし、橋下は否決から30分もたたないうちに、ある府議に「9月（議会）に新しいボールを投げさせてください」と漏らし、リベンジを誓った。

* * *

橋下にとってWTCへの府庁移転は、単なる役所の移転以上の重大事だった。

昨年8月、大阪・心斎橋の日本料理店で橋下と府特別顧問で慶大教授の上山信一が昼食をともにした。「大阪がパツとしないのは、鳴り物入りで建設しながら、大阪市の負の遺産と化したWTCと、利用が低迷する関西国際空港が原因じゃないのか」。2人の意見は一致した。

WTCをどうするか。おのずと結論が導き出された。「府庁を移転させれば、老朽化した庁舎問題が解決できるだけでなく、新たに人やモノの流れを作り出せる」と話がはずみ、橋下はベイエリア一帯の開発や関空の活性化につながるヒントを得た。この会談が、橋下が後に「WTCを全国の子供たちが府庁を覚えるシンボルにしたい」と発想する原点になったともいえる。

* * *

初戦で完敗した橋下は、今回の移転案の再提出に際しては、細心の注意を払い、負けなため
の布石を打った。

ひとつは9月に実施された堺市長選。現職と対決した元部下の竹山修身を積極的に支援し、劣勢とされた竹山を圧勝させ、影響力の大きさを見せつけた。もうひとつは、前回に比べ、関係者への説明を丁寧にした。WTCで働くことになる府職員を現地に行かせて意見聴取をしたほか、大阪市長の平松邦夫とともに、府内の市町村長向けに説明会を開き、移転について事前了承を取り付けた。この2点で橋下は外堀を埋めた。

さらに、本丸の府議に対しては、移転案の賛否によって次期府議選で応援に差をつけると“脅し”をかけた。ダメ押しは、今回否決の場合には出直し知事選に打って出ることも示唆したこと。人気者から政治家に生まれ変わった橋下。そんな橋下について、上山は「政治家としては合理的な発想をしていると思う」と分析した。（敬称略）

◇

26日の府議会本会議で最大の山場を迎えるWTCへの府庁移転案。橋下知事が見せる「5つの顔」から、再挑戦の意味を読み解く。

【画像説明】WTCへの大阪府庁移転を目指す橋下徹知事。2月議会のリベンジを果たせるか（コラージュ）

(2009年10月20日 08:18)

【知事の再挑戦 WTC府庁移転】（2）社長



周到的な経営感覚

大阪府庁本館は大正15年に完成した。都道府県庁舎としては国内最古だ。本館の約400メートル南西に平成に入って建設されたモダンな外観の新別館があり、パスポートセンターやホテル、府教委などの部署が入居している。その地下4階に倉庫がある。府職員の案内で中に入ると、ある建物の模型が目に入った。

今では幻となった府庁新庁舎のイメージ模型だった。大阪万博のパビリオンなどを手がけた世界的な建築家、黒川紀章の設計で、高さ214メートル、43階建ての高層ビルの行政棟と、ピラミッド型の議会棟、警察棟の3棟を中心に構成。事業費は計1340億円を見込んでいたが、実現したのは警察棟だけだ。

新庁舎はバブル景気まっただ中の平成元年に基本計画が策定されたが、バブル崩壊の余波を受け計画が狂い始めた。庁舎建て替えを見越した貯金（公共事業整備基金）が1300億円以上を数えた時期もあったが、一般会計の赤字を補うため、この貯金を使った結果、10年には残高が2億円まで減少した。

府財政の累積赤字は19年度末で約5兆円。20年度はその借金の利子だけで、733億円に上る。単純計算では2年間に支払う利子で、黒川設計の新庁舎が建設できるわけだ。

* * *

知事就任直後、橋下徹は「民間企業なら倒産している」と述べ、府財政の立て直しを宣言した。橋下は選挙で選ばれた「政治家」であると同時に、職員約8600人を率いる「社長」としての顔も持つ。部下が能率を上げられる職場環境をつくることも重要な仕事。そのひとつが庁舎の問題だ。

本館5階にある福祉部高齢介護室。見上げると天井には、オフィスには不釣り合いなステンドグラスが施されている。この部屋はかつて、知事からの表彰や人事発令などの儀式の際に使われていた「正庁」と呼ばれる部屋だった。歴代知事が立った演壇には、コピー機が置かれている。吹き抜けのため、冷暖房の効きも悪く、職員は「冬は寒く、夏は暑い」とぼやく。また本館はIT化にはまったく対応できない。各部屋のあちらこちらからケーブルが垂れ下がり、配線が入り乱れている。

ただ、古くて不便な程度なら、新庁舎を問題にする必要はなかった。しかし、前任知事の太田房江のもとで行われた本館の耐震診断で、震度6～7の地震で建物が倒壊するとの結果が出た。府は19年、とりあえず耐震補強するとの結論を出したが、本館の耐震補強費だけで約80億円がかかると試算された。また、庁舎のスペース不足は深刻で、民間ビル8カ所を借り、年間6億円を超える賃料を支払っていることも財政再建を目指す橋下にとっては看過できない問題だった。

* * *

橋下が府庁移転を目指す大阪ワールドトレードセンタービルディング（WTC）は、築14年の“中古物件”とはいえ、約1200億円で建設されたビルが今なら81億円で購入できる。

橋下にとっては、耐震補強と同程度の予算で、新庁舎を手に入れられ、職場環境も大幅に改善できるわけで、「こんなにお買い得なものはない」との計算が働いた。

側近の一人はいう。「『知事は思いつきでモノを言っている』という人もいるが、実は周到に考えている。財政難で職員給料はカットしたが、職場環境を変えないと組織としての能率は上がらないと感じたのだろう。それは、若くして弁護士事務所を経営するなど社長業を経験した知事の経営感覚かもしれない」

（敬称略）

【写真説明】高層の行政棟などが計画されていた府庁新庁舎一帯の模型。警察棟（右）のみが完成した（永原慎吾撮影）

（2009年10月21日 08:57）

【知事の再挑戦 WTC府庁移転】（3）大阪のリーダー

府市連携 自浄能力を誇示

「まちづくりの最終責任は大阪市長にあります」。21日午前、大阪府議会に招請された平松邦夫はこう訴えた。自治体の首長が他の自治体の議会で意見表明することは極めて異例のことだ。平松は大阪ワールドトレーディングセンタービルディング（WTC、大阪市住之江区）への府庁移転に関連し、市側の「本気度」を示すためにも海外出張を取りやめて臨んだ。

平松は7月下旬に、大阪市北区の自宅を引き払い、WTC近くの高層マンションに転居。府庁移転問題の解決は、第三セクターの破綻（はたん）処理を公約に掲げた平松にとっても最重要課題だからだ。

ある市幹部は「これから水道事業の統合や大学の問題をはじめ府市の二重行政を解消するためにしなくてはならないことがいくつもある。WTC問題は両者にとって、そのきっかけになる」と話す。府と市の雪解けのシンボルにもしたいという思いもあるという。

* * *

庁舎問題は大阪だけで起きているわけではない。どの自治体も庁舎老朽化などに伴い、建て替えか移転かの選択に迫られ、トップは決断が求められる。

ツインタワーが象徴的な東京都庁は平成3年にJR東京駅そばの丸の内から、新宿区に移転した。当初都庁内は「丸の内派」と「新宿派」の攻防があった。丸の内派は、国会や中央省庁に近いメリットを生かし、建て替えを主張。一方、新宿派は西部の人口増加を受け、新しい街に移転し、発展の足がかりにしたいと抗弁した。決断を迫られた当時の都知事、美濃部亮吉はいったん「丸の内」を選択するが、昭和54年の退陣で立ち消えに。後任の鈴木俊一は「新宿」を選んだ。

一方、大阪同様、庁舎移転が論議されている長崎県。JR長崎駅に近い湾岸地域の魚市場跡に移転新築する計画に反対運動が起きている。「移転すると地元商店街がさびれ、伝統のまつり『長崎くんち』にまで影響が及ぶ」との声もあり、建て替えを望む住民は多い。

『都庁』などの著作がある中央大教授の佐々木信夫は「市町村役場に比べ、都道府県庁はどこにあっても住民の利便性に大きな影響がないという意見もある。そこには、変化を求めるかどうか、といった心情的な問題はある」と指摘する。

* * *

大阪府庁移転は府知事の橋下徹にとって、単に府庁所在地を変えるという以上の判断がある。府のトップとしてだけでなく、大阪市の面倒もみる「大阪のリーダー」としての視点があるためだろう。

WTCがある大阪市咲洲地区周辺は市が中心に開発を進めたものの頓挫（とんざ）した、いわく付きの土地。そのシンボルのWTCには現在、市の部局が入居し、その賃料で命脈を保ってきたが、再び破綻した。府のWTC購入は、市を救済するという意味を含んでいる。

府議や府職員のなかには「豊臣秀吉以来の大阪の中心地である大手前を離れたくない」という郷愁も残るうえ、「市の失敗の後始末をなぜ府がしなくてはならないのか」という不満もくすぶる。この背景には、府と市の関係が長年不仲で、両者の関係が「府市（ふし）あわせ」と揶揄（やゆ）された歴史もある。だが、橋下は「市民も府民だ」と強調し、WTC購入によって市の問題解決にも踏み込もうとしている。

もちろん、市の抱える問題に知事が口を出す必要があるのかという声は根強い。だが、府幹部の一人はこう解説した。「知事は地方分権をはじめ、国に対して強烈なメッセージを送り続けている。だが、大阪市の問題とはいえ足下のトラブルも解決できないようでは、外向けにモノが言えない。WTC問題は、自治体破綻の象徴のような問題。これを解決することは、大阪が自浄能力を持っていることを世間に示すことにもなる」

（敬称略）

（2009年10月22日 08:39）

2009年10月23日

【知事の再挑戦 WTC府庁移転】（4）外交官

地上256メートル「迎賓館」計画

「これがソウル全域です」。9月上旬、韓国・ソウル歴史博物館で、大型ジオラマ（縮尺模型）を眺めながら、大阪府知事、橋下徹はソウル市長の呉世勲（オセフン）から説明を受けた。ソウルの街全体が1500分の1に縮小され、天井の照明が探したい場所を照らし出す仕組みもあり、まるで空中からソウルを自由自在に操れるような“王様気分”になれるのが売りだ。

同行した府職員は「街並みを示しながら、都市の将来ビジョンを堂々と語る呉市長の姿に知事はショックを受けた様子だった」と振り返る。

大阪ワールドトレードセンタービルディング（WTC）への府庁移転構想で、WTCを「迎賓館」として位置づけ、「外国の方々に展望台から、大阪や関西を一望してもらおうのが僕の夢」と語っていることからその感激度合いは相当だ。

* * *

大阪府庁には週に1～2回のペースで、海外からの賓客が訪れる。平成20年度は20カ国以上から表敬訪問があった。橋下には彼らを歓待する「外交官」としての役割もある。

「国際交流、自治体外交の方針がない。ビジョンが見えないようではだめだ」。昨年10月、担当課に厳しい指示をした。職員にとっては寝耳に水の話だった。これまで国際交流といえば、文化や音楽、スポーツなどが主流だったからだ。担当職員の一人は橋下が意図した目に見えるビジョンについてこう解説した。「観光や経済分野で短期的に実を取ることであった」

外交戦略の軸について、知事就任前はグアム旅行程度の海外経験しかないが、就任後は計6回、海外出張した。中国、韓国、タイと行き先はすべてアジアだ。

8月のタイ訪問では、現地の各放送局が橋下の訪問を取り上げた。タイでは大阪の知名度は低い、「日本で注目されている知事が来た」と評判になった。「かつての知事の中には、『何で私がそんなところに…』と露骨に海外視察を嫌がる人もいたが、橋下知事は自分で決断している。その国になぜ出張しているのか、強く自覚しているからだと思う」と担当の職員は話す。

* * *

外交官としての役割を強く意識する橋下が府庁に「迎賓館」の機能を求めるのは当然で、WTCは最もふさわしいと映った。その理由について、ある府幹部は「知事は何でも一番が好き。WTCは大阪で一番高いビルだから」と分析した。ジオラマの上から市の将来ビジョンを語ったソウル市長のように、橋下も大阪はもとより神戸や奈良まで見渡せる地上256メートルのWTCの“オーナー”として、55階の展望室で「これが大阪の街です」といいたいはずだというのだ。

さらに府幹部はこう続けた。「伝統を重んじるヨーロッパが相手なら大阪城の方が効果はあるが、知事はアジアの要人に東洋文化を見せても効果は薄いと思ったのだろう。知事は彼らを感激させるための方策としてのWTCに思いを巡らせているのかもしれない」

(敬称略)

(2009年10月23日 07:49)

2009年10月24日

【知事の再挑戦 WTC府庁移転】（5）地方代表

ヒトとモノの流れ変える

JR桜島線の延伸、南港エリアのカジノ構想、関西リニア…。いずれも大阪ワールドトレードセンタービルディング（WTC、大阪市住之江区）に大阪府庁移転を目指す知事の橋下徹が提唱する周辺整備構想だ。

しかしリニアやカジノなどは、具体的な計画がはっきりしないうえ、多額の費用がかかることは必至だ。大阪ではWTCをはじめ、五輪誘致や関西空港建設に伴う大型開発で失敗を繰り返した歴史があるが、「次代に借金を負わせるような起債発行でリニアを造ったり、桜島線の延伸をしたりすることは考えてない」といい、財政問題にシビアな橋下らしい方針だ。

もともと府庁移転にしても、大手前地区に建て替え用に確保していた土地を売却し、WTCの購入資金にする方法を取る計画だった。「使っていない府の資産を組み替えて活用するのが僕の思想」というのが持論だ。ただ、府庁移転の真のねらいは「ヒトとモノの流れを変え、新たな国土軸をつくる」ことにある。

* * *

「関西をハブ空港にしないなら府の金は出せない」。前原誠司国土交通相が羽田空港（東京）のハブ化を持ち出した際、橋下はこう反発した。民主党の「子ども手当」をめぐる財源の地方負担案が浮上すると「民主党が決めたことに地方がカネを出せと言うなら独裁国家だ」と批判。こうした国に対してモノを言う姿勢は今や当たり前になった。そこには「地方代表」としての自負が垣間見える。

府幹部の一人は「知事がWTCへの移転で、人の流れを変えたいというのは、大阪だけの話ではなく、関西全体の問題。地方全体を俯瞰（ふかん）して考えてのことだ」と解説する。東京への一極集中にあらがうためには、関西がまとまる必要があると考えているのだろう。

橋下がWTC問題の先にみずえるのは道州制や広域連合、国からの権限委譲といった国と地方の新たな関係づくり。前横浜市長の中田宏や松山市長の中村時広らと結成した首長連合は、その第一歩だ。首長連合は堺市長選で、存在感を強めたほか、総務相からも外部顧問就任の要請を受けるなど、中央からも無視できない存在になりつつある。

* * *

首長連合の同士・中田は府庁移転について、「庁舎の耐震化や周辺のまちづくり、関西の発展といった各論をつないでビジョンをつくる才能をみせた」と橋下の感覚を評価したうえで、興味

深い人物評をした。

「彼は何をどう発言すれば効果を発揮するかを考える力を天性のものとして持っている。あえて敵をつくり、求心力を保っているところもあるが、人の意見を聞き、間違っていると思えば、それを受け入れる度量もある」

府庁移転関連議案が否決されれば、出直し知事選に打って出ることも辞さないと表明。26日の本会議採決を控え、“地方の星”橋下はどう出るのか。決断のときが迫っている。（敬称略）
＝おわり

（この連載は田井東一宏、河居貴司、今西和貴、池田祥子、吉田智香、永原慎吾が担当しました）

(2009年10月24日 10:28)